

得できるようにしたい。

## 公の防災及び指定避難施設

**問** 震災が起これば本庁舎が本部となり、熊本大震災から見ても、強固な地盤の改良と建物が必要となるが、今の本庁舎のあり方はどう考えているのか。また、指定避難場所の中央体育館は耐震工事が終わっているが、隣接する中央公民館の耐震工事は終わっていない。現状、避難場所としての役目が果たせるのか。

**答** 避難場所や本部になる本庁舎は、リファイン、リノベーションも含め、建替え、改築、新築などがあるが、当然、最高の耐震で、耐震基準で最高の1.5を目指し検討している。中央公民館、分館は耐震診断しており、Is値はそれぞれ0.378と0.56であった。ここは万葉ホールに近く、医大もある。新駅もできる予定で、県にランドデザインを描いてもらい、できる限り早期に着手したい。FMの観点も踏まえ、再度、施設全体のあり方を考えたい。

**問** 中央体育館が老朽化する頃には、運動公園に体育館をといった計画があったと聞いている。運動公園を広域的な避難場所と位置づけており、備蓄倉庫、屋根つき運動場、荷さばき所、耐震の水道タンクもあり、仮設住宅の建設場所にもなっているが、熊本大震災を見ても、仮設住宅が進まない中で、車中泊を余儀なくされる方もいると聞く。指定避難所にするのなら、防災機能を高めたアリーナ等の建設を考えるも一つではないか。

**答** 指定避難所は、市が保有する資源をより効果的に活用できるように計画している。運動公園は設備も整っており、応急対応時にはヘリコプターの離発着場にもなる。また、檀原公苑一帯は、県有の施設もあり、檀原高校や畝傍高校の体育館も指定避難施設にすることを県と協議している。これらの観点から、避難場所は、現有している施設を効果的に使うことが問われている。当時、運動公園に、体育館をつくる計画があったのは確かであるが、当然、現有すれば有効に活用できると考えている。

**問** 八木駅周辺は長年にわたる最中で、医大周辺整備も含め、何十年か経ったあと、良いまちづくりをしたと言われようように考えていきたい。新しく医大の駅ができ、新しいまちづくりがそこから始まる。万葉ホールがあり、今ある体育館、公民館をどうするかからスタートを切りたい。色々な選択肢はあるが、非常に楽しみであると同時に、しっかりと責任を果たしていきたい。

**問** 約10年前に完遂した八木駅南側のロータリーは、時代に合わないことも出てきている。30年のオープンに向け、ロータリーの改良も含めての、市長としての考えは。

**答** 八木駅南ロータリーのシエルトがなぜあんなに狭いものになっているのか不思議ではあるが、これはもうできているもので、本市にはそれを改良する手立てももちろん持っている。30年のオープンで、交通渋滞等も予想され、大きく変えなければならぬ。八木駅周辺に限っては、車の出入りが少ない場所にし、歩

質問したが、市長の本音や方針を聞きたい。

いてどこへでも行け、バリアフリーで、しかもたくさんの方が集客できる駅前になりたいという夢がある。改良できるところは改良していきたい。



### 災害時障がい者・高齢者・乳幼児等をまもる対策

**問** 高齢者、障がい者、乳幼児等の避難生活に対応する福祉避難所は全国及び本市に何カ所指定されているか。

**答** 福祉避難所は平成25年9月時点で全国に1万4,182施設指定されており、本市では現在幼稚園15園と保育園5園の計20園を地区指定避難所として指定している。また民間福祉避難所として養護老人ホーム1園、特別養護老人ホーム5園と協力に関する協定書を取り交わしている。

**問** 福祉避難所の仕組みをどのように整備していくのか。

**答** みずから避難することが困難で特に支援を要する方の避難については、平成27年に

福祉部で避難行動要支援者避難支援計画を策定し、避難支援者が地区指定福祉避難所に誘導、避難できるようにしている。介護や障がいの程度により地区指定福祉避難所では生活が困難な場合は民間福祉避難所が受け入れる。しかし現在老人ホームはほぼ満杯であることから、ボランティア支援班が県外から専門職の応援スタッフ等を募集して人手を確保する。要援護者支援班は要援護者の人数とその状況や各施設の受け入れ可能人数を把握し、ボランティア支援班に必要な人員を伝え、対応していく。

**問** 福祉避難所の指定の手順、ガイドラインは。またそれらの運営等に要する経費はどうするのか。

**答** 福祉避難所の指定のガイドラインはないが、広域型の施設が供用開始されると福祉避難所の依頼をし、協力の締結を進めている。今後は市内に点在する地域密着型の施設や障がい者施設等も含め、福祉避難所を充実させるべく、福祉避難所の基準や防災計画における詳細な役割等を危機管理課と連携、協議しながら